

秋季町民 グラウンド・ゴルフ大会開催！

☎11月8日(日)9:00～開会式
(予備日11月10日(火))

▶参加資格

以下のどちらかに当てはまる人

- ①町内在住者
- ②町内事業所勤務者

▶競技方法

個人戦

所町民グラウンド

¥一人300円(申込み時に徴収)

☎10月20日(火)までに申込書に参加費を添えて
町民体育館へ提出してください
(申込書は町民体育館にあります)

▶注意事項

マスク着用、体温測定
(体調不良、体温37.5°以上は参加不可)

☎グラウンド・ゴルフ協会 竹川

☎854-3669



献血を実施します

☎10月27日(火)

所9:00～11:00 東部地域健康センター

13:00～16:00 町民会館

☎熊野町公衆衛生推進協議会(生活環境課内)

☎820-5606

ご協力をお願いしますリン♪



**熊野町教育委員会委員を
任命しました**

9月の町議会定例会において、熊野町教育委員会委員として、大竹美枝子さんの任命(再任)が決定されました。これにより、10月1日から引き続き熊野町の教育行政の推進にご助力いただきます。

☎教育総務課 ☎820-5620



「野球部32年ぶりベスト16進出」

熊野高等学校

この地に (293)

新型コロナウイルスの影響で、感染症予防対策を行いながら、厳しい暑さに耐え忍んだ夏でした。そうした中で、熊野高校は、この数年味わうことができなかった喜びに湧きました。野球部が「令和2年夏季県高校野球甲子園大会」において3度の勝利をおさめ32年ぶりのベスト16進出と大躍進しました。


初戦の加計高校戦では3-2の接戦を制し、11年ぶりの初戦突破を果たしました。勢いに乗った2回戦では、神辺高校に対し、9-1で見事コールド勝ちをしました。第3回戦、三次青陵高校との戦いでは、一時2-8と最大6点差を付けられていましたが、6回表、浜田朝光のセンターオーバーへのタイムリーヒットを皮切りに、最後は石崎竜之介の内野安打が相手のミスを誘い、ランニングホームランとなり一挙6得点で逆転し、勝利を手にしました。第4回戦、優勝を果たした広島商業高校との戦いでは、0-4と大健闘しましたが勝利を導くことはできませんでした。第1回戦から一人で投げぬいた、谷野功夫投手の好投と河内建人捕手の巧みなリードが高く評価され、12人の部員で戦い抜いた姿に称賛の声があがりました。敗戦後、最後のミーティングでは主将の湯浅達也からは、「後輩達には甲子園に行ってもらいたい」と新たな熊野高校野球部への激励が述べられました。大会実施に当たり取り組んでいただいた皆様、応援に駆けつけ、最後まで選手一人一人に熱い声援をしていただいた保護者・関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。

▲試合へと挑む熊高ナイン ▲14人の熊高伝説
☎熊野高等学校 ☎854-4155

吉田 明子(母)

星野源は大病を乗り越えたことをも独特な表現で描きます。日常を意外な角度から捉えていて、驚かされたり、共感させられたり。彼が創る楽曲にも繋がる風景が垣間見える一冊です。





こんな時だからこそ

熊野東中学校

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校での活動も制限があります。このような中でも、三年生は中学校生活最後の締めくくりの部活動に熱心に取り組みました。運動部は春季大会が中止になりましたが夏季大会は時期をずらして、三年生を中心にした大会が実施されました。

また、文化祭が実施できないため、文化部でもいろいろな工夫をしています。例えば、美術部や家庭科部は校内で作品展示をする、書道部は保護者の人に大書を書く場面をみてもらう、吹奏楽部は演奏会を開催するなどを考えています。形はこれまでとは異なりますが、生徒自身が考え、工夫することでよりよく成長する活動ができると思います。こんな時だからこそできる活動に感謝をし、学校全体でよりよい東中を目指して取り組んでいきたいと思っています。


(教育総務課)

低学年書道科の指導

熊野第二小学校

今年度も、低学年書道科の指導が行われています。新型コロナウイルスの影響で休校があり、例年よりも授業の回数は減っていますが、子供達は毎回とても楽しみにしています。低学年からの書写指導は、子供達の集中力を高めるとともに落ち着いて学習する態度を養っています。PPG(ぺったん・ピン・グー)の姿勢を意識しながら目を輝かせて筆を持つ姿を見ると、日本の伝統文化である書道を通じて、子供達の学ぶ意欲の向上と豊かな心の育成が図られていると感じます。

熊野第二小学校の自慢である「無言掃除・無言移動」は低学年からの書写指導の成果でもあると思います。これからも、あいさつや靴そろえなど、「熊二しぐさ」として全校で取り組んでいる内容を、書写指導をはじめとした各教科等で培った資質や能力を発揮しながら更に充実させていきたいと考えています。



(教育総務課)

「この本、よかった!」
『いのちの車窓から』 (86)
著 星野源
(KADOKAWA)